

彙 報

会 長 梶 茂 樹

——常任委員会——

2012 年度第 1 回常任委員会

日 時：2012 年 5 月 13 日(日)11:00～17:00

場 所：日本言語学会事務支局（中西印刷学会フォーラム）

出席者：梶 茂樹(会長)、荻野綱男、小林正人、坂本 勉、定延利之、田野村忠温、新田哲夫、町田 健、米田信子（以上常任委員）、吉田和彦（事務局長）

オブザーバー：林 徹（編集委員長）、遠藤喜雄（大会運営委員長）、酒井 弘（広報委員長）、加藤重広（夏期講座委員長）、内藤真帆、森 若葉（以上事務局委員）

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員について確認がなされた。
- (2) 2012 年度科学研究費研究成果公開促進費について
 - ・2012 年度の交付金額が 160 万円であることが報告された。『言語研究』138～143 号（2010 年～2012 年）については 2010 年 5 月の入札により中西印刷と契約している。
- (3) 2013 年以降の大会について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 146 回大会（2013 年春季大会）：2013 年 6 月（予定）、茨城大学（大会実行委員長：岡崎正男氏）
 - 第 147 回大会（2013 年秋季大会）：2013 年 11 月（予定）、神戸市外国語大学（大会実行委員長：武内紹人氏）
- (4) 各種委員会からの報告
 - 本彙報の各委員会の項目を参照。
- (5) 学会用務のための旅費等の支給に関するガイドラインについて
 - ・日本言語学会用務のための交通費、日当、

宿泊費などの支給を適切に行うためのガイドラインについて説明がなされた。

- (6) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトについて
 - ・2011 年度に採択された「危機言語関連リソースの整備と公開—日本からの情報発信のための基盤構築—」について、その活動内容および支出の適切性に関する評価が報告された。
- (7) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について
 - ・大会発表賞選考小委員会からの推薦に基づいて、第 143 回大会（2011 年 11 月 26 日）における大会発表賞が以下のように決定したことが会長より報告された。
 - 大滝宏一・杉崎敏司・遊佐典昭・小泉政利「カクテル語における項削除の可否について」
 - 前田雅子「日本語における非顕在的 wh/focus 移動と Relativized Minimality」
- (8) その他
 - ・2013 年度以降の科学研究費研究成果公開促進費について
 - 5 月 16 日に東京で開催される研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の改正に関する説明会への出席を、常任委員の小林正人氏に依頼した。

[審議事項]

- (1) 各種委員会委員の交替について
 - ・大会運営委員の交代についてははかられた。
- (2) 2012 年度科学研究費研究成果公開促進費の経理担当者の選考について
 - ・今期の経理担当者として常任委員から定延利之氏を選出した。
- (3) 日本言語学会論文賞選考小委員会委員の選考について
 - ・2012 年度の論文賞選考小委員 6 名について候補者が承認された。
- (4) 日本言語学会大会発表賞選考小委員会委員の選考について
 - ・2012 年度の大会発表賞選考小委員 4 名について候補者が承認された。
- (5) 言語系学会連合の運営委員の選考につ

いて

- ・ 日本語学会から選出される言語系学会連合運営委員1名について候補者を選考した。
- (6) 日本語学会大会発表賞の規定変更
 - ・ 第3条第2項、第4条第1項に含まれている「当該大会の発表者」を「当該大会において発表賞の受賞対象となりうる発表の発表者」に修正することについてはかられた。
- (7) 会則の改訂について
 - ・ 会則第23条から、「特別顧問」を削除することについてはかられた。
- (8) 英文プログラムについて
 - ・ 学会ホームページや予稿集に掲載する英文プログラムについてはかられた。
- (9) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
 - ・ 2011年度に引き続き、会費免除措置を継続するという提案について審議された。
- (10) 2011年度決算について
 - ・ 学会事務局によって作成された決算について検討を行った。
- (11) 2012年度予算について
 - ・ 2012年度予算について審議し、常任委員会原案を作成した。

——評議員会——

2012年度第1回評議員会

日時：6月16日（土）10:30～12:30

場所：東京外国語大学本部管理棟2階大会議室

出席者：梶 茂樹（会長）、加藤重広、佐々木冠、小野尚之、小泉政利、後藤 斉、上野善道、遠藤喜雄、大津由紀雄、大堀壽夫、生越直樹、尾上圭介、影山太郎、風間伸次郎、菊地康人、窪菌晴夫、坂原茂、高見健一、滝浦真人、角田太作、中川 裕、西村義樹、長谷川信子、早津恵美子、松村一登、峰岸真琴、鷺尾龍一、北野浩章、佐久間淳一、清水克正、玉岡賀津雄、町田 健、油谷幸利、工藤真由美、定延利之、佐藤昭裕、沈 力、田窪

行則、田野村忠温、野田尚史、藤代 節、益岡隆志、三原健一、吉田和彦、吉田 豊、桐生和幸、酒井 弘、塚本秀樹、和田学、青木博史、上山あゆみ、久保智之、坂本 勉（以上評議員52名）

委任状：16名

オブザーバー：井上 優、金水 敏（以上会計監査委員）、内藤真帆、森 若葉（以上事務局委員）

議事に先立ち、6月7日に逝去された原口庄輔会員ののご冥福をお祈りし、黙祷が行われた。

[報告事項]

- (1) 第144回大会について
 - ・ 会長より開催校である東京外国語大学に対する謝意が表された後、大会実行委員長の高岸真琴氏より挨拶があった。
- (2) 今期の組織・役員について
 - ・ 今期の組織・役員が資料によって確認された後、出席者の紹介が行われた。
- (3) 2012年度科学研究費研究成果公開促進費について
 - ・ 2012年度交付金額は160万円であり、交付申請書が5月に学術振興会に提出されたことが報告された。
 - ・ 経理担当者として常任委員から定延利之氏が選出されたことが報告された。
- (4) 今後の大会について
 - ・ 以下の予定が報告された。
 - 第145回大会（2012年秋季大会）：2012年11月24日（土）～25日（日）、九州大学（大会実行委員長：久保智之氏）
 - 第146回大会（2013年春季大会）：2013年6月（予定）、茨城大学（大会実行委員長：岡崎正男氏）
 - 第147回大会（2013年秋季大会）：2013年11月（予定）、神戸市外国語大学（大会実行委員長：武内紹人氏）
 - ・ 145回大会の開催校を代表して久保智之大会実行委員長から挨拶があった。
- (5) 各委員会報告
 - ・ 本彙報の各委員会の項目を参照。

- (6) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について
- ・大会発表賞選考小委員会からの推薦に基づいて、第143回大会(2011年11月26日)における大会発表賞が以下のように決定したことが会長より報告された。
大滝宏一・杉崎鉦司・遊佐典昭・小泉政利「カクケル語における項削除の可否について」
前田雅子「日本語における非顕在的wh/focus移動とRelativized Minimality」
- (7) 言語系学会連合について
- ・言語学会からの運営委員として窪菌晴夫氏を選出したことが報告された。任期は2015年3月31日までである。
- (8) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトについて
- ・2011年度に採択された「危機言語関連リソースの整備と公開—日本からの情報発信のための基盤構築—」について、会長よりその活動内容および支出の適切性に関する評価が報告された。引き続き、プロジェクト代表者の田窪行則氏より期待した成果が提出できなかったことについての説明がなされた。
- (9) 外部団体の活動への協力について
- ・7月28日～29日に国立民族学博物館で開催される手話言語と音声言語のシンポジウムについて、言語学会からの後援を受けたいという依頼が菊澤律子氏からあったことが説明され、常任委員会で承認されたことが報告された。
- (10) その他
- ・2013年度以降の科学研究費研究成果公開促進費について
5月16日に研究成果公開促進費「学術定期行物」の改正に関する説明会が東京で開かれ、常任委員の小林正人氏が出席した。説明会での趣旨は、日本の学術情報発信力を強化するために、電子化やオープンアクセス刊行のスタートアップの取り組みに対して、5年間の助成を行うとのことである。今後、詳しい情報を収集し、学会として検討を行うとの報告がなされた。

報告がなされた。

- ・第144回大会における手話通訳者手配の依頼への対応について
会員より手話通訳者を会場に手配できないかという要望があった。これを受けて常任委員会と大会実行委員会で検討した結果、つぎのように対応することが報告された。学会が通訳費用を負担するが、金額は最低料金で対応してもらう。また、個人に対してではなく、会場の出席者に見えるような形で通訳を行ってもらう。ただし、この対応は暫定的なものであり、他の学会の事例なども参考にし、今後常任委員会で検討していく。

[審議事項]

- (1) 今期選挙管理委員の選出について
- ・選挙規則に基づき投票の結果、下記の選挙管理委員8名が選出された。
定延利之(神戸大学)、沈力(同志社大学)、田野村忠温(大阪大学)、佐藤昭裕(京都大学)、益岡隆志(神戸市外国語大学)、藤代節(神戸市看護大学)、立石浩一(神戸女学院大学)、笹間史子(大阪学院大学)。なお次点は有田節子(大阪樟蔭大学)である。
- (2) 会則の改訂について
- ・会則第23条から、「特別顧問」を削除することが承認された。
- (3) 申し合わせの変更について
- ・「委員長等への必要経費補助の支払いに関する申し合わせ」に含まれている「夏期講座小委員会」を「夏期講座委員会」に修正することが承認された。
- (4) 日本言語学会大会発表賞の規定変更について
- ・第3条第2項、第4条第1項に含まれている「当該大会の発表者」を「当該大会において発表賞の受賞対象となりうる発表の発表者」に修正することが承認された。
- (5) 日本言語学会論文賞選考小委員会委員について
- ・2012年度の日本言語学会論文賞選考小

- 委員会委員 6 名が承認された。
- (6) 日本言語学会大会発表賞選考小委員会委員について
- ・2012 年度の日本言語学会大会発表賞選考小委員会委員 4 名が承認された。
- (7) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
- ・2011 年度に引き続き、会費免除措置を継続するという提案が承認された。
- (8) 2011 年度決算について
- ・2011 年度決算案について説明がなされた後、田窪行則会計監査委員より適正との報告があり承認された。【別表 1 参照】
- (9) 2012 年度予算について
- ・2012 年度予算案について検討を行った結果、承認された。【別表 2 参照】
- (10) その他
- ・『言語研究』掲載論文のホームページでの公開について
- 現在、刊行後 1 年を経た論文の学会ホームページでの一般公開（無償）を試行中である。今後の方針については、会員数の変動およびバックナンバー販売推移などを常任委員会で分析し、秋の評議委員会で決定することが承認された。
 - ・予稿集および言語研究抜き刷りの PDF 化について要望があり、今後検討することが承認された。
 - ・電子書籍化についてシステムの検討の要望があった。今後、広報委員会に諮ることが承認された。

——編集委員会——

2012 年度第 1 回編集委員会

日 時：2012 年 4 月 7 日(土) 13:00 ~ 16:00
 場 所：東京大学文学部言語学研究室
 出席者：上山あゆみ、久保智之、藏藤健雄、小森淳子、田中ゆかり、西村義樹、林徹（委員長）、吉田 豊（委員長代理）、鷺尾龍一、梅谷博之（委員長補佐・オブザーバー）

[報告事項]

- (1) 編集委員と委員長補佐が紹介された。
- (2) 2012 年度の刊行スケジュールが報告された。
- (3) 前期委員会での査読・編集作業が紹介され、本委員会もこれに従って作業を進めることが確認された。
- (4) 142 号の編集作業の状況について報告された。

[審議事項]

- (1) 上山委員に管理人をお願いし、九州大学のサーバで委員会 ML を運用することとした。
- (2) 特集テーマについて審議した結果、144 号は西村委員が担当し「言語学と哲学」というテーマで投稿を募ることとした。146 号と 148 号の特集テーマについても議論し、「アジアの手話」、「文献言語学」を候補として、引き続き検討することとした。
- (3) 海外特別編集委員を委嘱する候補を決定し、分担して打診することとした。

2012 年前半の投稿状況

2012 年 4 月から 8 月までに編集委員会が受理した投稿は 25 本だった。10 月現在の状況は以下のとおり。なお、この中には、4 月以前に投稿されたものの、前期委員会から今期委員会への引き継ぎ期間だったため、査読作業等が 4 月以降に開始された原稿も含まれている。

投稿総数	25
採択	7
改稿中	2
審査中	7
不採択	9

——大会運営委員会——

2012 年度第 1 回大会運営委員会

日 時：2012 年 4 月 2 日(月) 11:00 ~ 16:00
場 所：東京外国語大学研究講義棟 4 階 419 号室

出席者：遠藤喜雄（大会運営委員長）、斎藤倫明、三間英樹、玉岡賀津雄、野村益寛、藤代 節、堀田優子（以上、大会運営委員）、峰岸真琴（大会実行委員長）、早津恵美子、上田広美（以上、大会実行委員）

[報告事項]

- (1) 144 回大会の準備状況が報告された。
- (2) 藤代節氏が次期大会運営委員長に指名されたことが報告された。
- (3) 懸案事項について確認した。

[審議事項]

- (1) 144 回大会の応募要旨の審査をおこなない、口頭発表 44 件（応募 70 件）、ポスター発表 4 件（応募 4 件）、ワークショップ 3 件（応募 3 件）を採択した。
- (2) プログラムの編成と司会者の人選をおこなった。

[大会実行委員との打ち合わせ]

- (1) 会場校の準備状況が説明された。
- (2) 会場、懇親会、使用機器、プログラム掲載情報について検討、確認した。
- (3) 会場予定の教室等を見学した。

——広報委員会——

- ・2012 年 4 月で交替する委員の後任を、小野創氏（和文ページ webmaster）、鈴木孝明氏（次期委員長予定者）、有田節子氏、栗林裕氏（危機言語担当）に委嘱することが承認された。
- ・学会ホームページの日本語サイト・英語サイトに随時必要な情報をアップした。
- ・会長及び常任委員会と協議の上、学会ホームページ上で公開されている論文等に含ま

れるメールアドレスや住所などの個人情報について、著者からの要請があれば削除することとした。

——夏期講座委員会——

2012 年度夏期講座委員会

日 時：2012 年 6 月 15 日(金)14:00 ~ 15:00
場 所：北海道大学東京オフィス大会議室
出席者：加藤重広（委員長）、西村義樹（2012 実行委員長）、佐久間淳一
オブザーバー：小林正人（2012 実行委員）、長谷川明香（2012 実行委員）

- (1) 「夏期講座への夏期講座委員の参加に関する申し合わせ」と「夏期講座委員会参加にかかる旅費の算定についての申し合わせ」について、「夏期講座小委員会」を「夏期講座委員会」に改めるなど一部を修正した。
- (2) 西村委員より、夏期講座 2012 準備状況と実施体制について報告があり、実施の際の注意点ならびに事後の事務処理などについて相談した。
- (3) 夏期講座 2012 に参加する委員について確定した。
- (4) 2014 年度に名古屋大学で開催することを確認し、準備について議論した。2013 年度で夏期講座委員を退任する 2 委員の後任について議論した。
- (5) 来年度の夏期講座委員会を春季大会の前日に東京で開催することを決めた。

——小委員会——

大会発表賞選考小委員会

- ・第 144 回大会（東京外国語大学）での大会発表賞の審査対象になる発表と審査手順について検討し決定した。（2012 年 6 月 3 日（日）、慶應義塾大学）

——事務局——

2011 年度会計監査

日 時：2012 年 5 月 18 日(金)11:00～13:00

場 所：日本言語学会事務支局（中西印刷学会フォーラム）

出席者：田窪行則，林 徹（以上前会計監査委員），影山太郎（前会長），井上 優（前事務局長），糸魚川共子（事務支局）

田窪行則，林徹両委員により 2011 年度決算書と関係書類について監査が実施された。

その他

- ・2011 年度科学研究費研究成果公開促進費の監査が，前期常任委員の経理担当者であった早津恵美子氏により実施され，適正との報告があった（2012 年 7 月 30 日(月)，東京外国語大学）。

【別表 1】2011 年度日本語学会決算

自 2011 年 4 月 至 2012 年 3 月 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,420,500	刊 行 費	3,814,020
雑 誌 売 上	1,337,650	発 送 費	383,240
科学研究費補助金	1,700,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	63	大 会 関 係 費	3,599,558
預 金 金 利	3,332	評 議 員 会 費	223,877
大会関係収入	2,384,920	常 任 委 員 会 費	678,074
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	421,360
雑 収 入	120	大会運営委員会費	507,622
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	315,020
基金から繰り入れ	2,000,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	32,840
夏期講座準備費返納	0	事 務 局 費	469,510
		学 会 賞 費	100,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	45,260
		夏 期 講 座 準 備 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	110,000
		CIPL 言語学文献一覽編集補助	166,800
		通 信 費	535,305
		消 耗 品 費	325,284
		雑 費	60,000
		名 簿 作 成 費	434,314
		選 挙 関 係 費	758,582
		予 備 費 (基 金 へ の 繰 入)	269,180
		名 簿 作 成 積 立 金	0
		選 挙 関 係 積 立 金	0
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
収 入 合 計	20,846,585	支 出 合 計	18,583,846
前 期 繰 越 金	7,266,812	次 期 繰 越 金	9,529,551
計	28,113,397	計	28,113,397

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内通常会員	11,472,000
国内維持会員	130,000
国内学生会員	1,020,000
国内団体会員	658,000
在外通常会員	113,500
在外学生会員	27,000
合 計	13,420,500

雑誌売上

書店販売	1,318,500
三省堂書店	44,100
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	1,009,800
丸善	201,600
その他書店	63,000
事務局販売	19,150
合 計	1,337,650

科学研究費補助金

1,700,000

科学研究費補助金利息

63

預金金利

3,332

大会関係収入

大会出店料	
141 回大会 1 スペース 1 日（1 社）	5,000
142 回大会 1 スペース 2 日（9 社）	90,000
2 スペース 2 日（2 社）	40,000
143 回大会 1 スペース 2 日（7 社）	70,000
2 スペース 2 日（2 社）	40,000
予稿集売上	2,096,000
142 回大会	1,048,000
143 回大会	1,010,000
事務局（119～143 回大会バックナンバー）	38,000
託児関係収入	43,920
合 計	2,384,920

雑収入

120

基金からの繰り入れ

2,000,000

◇支出内訳（単位：円）

刊行費

内 訳	印刷部数		各号共に 2,300 部 計
	140 号 (225 p.)	141 号 (170 p.)	
印刷費	2,154,600	1,625,400	3,780,000
抜刷代	22,680	11,340	34,020
合 計	2,177,280	1,636,740	3,814,020

※割付・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』一斉発送料	140 号	210,980
	141 号	172,260
合 計		383,240

事務委託費

2011 年 4 月分～2012 年 3 月分
 日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた
 事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

4,284,000

大会関係費

内 訳	第 142 回	第 143 回	計
プログラム印刷費	105,000	105,000	210,000
ポスター印刷費	109,200	109,200	218,400
予稿集印刷費	708,750	934,500	1,643,250
その他印刷費 / 備品	27,300	30,786	58,086
大会関係発送費	166,562	169,499	336,061
大会費	220,010	683,371	903,381
講師謝金等	0	50,640	50,640
託児関係費	43,250	76,490	119,740
大会実行委員長経費補助	30,000	30,000	60,000
合 計	1,410,072	2,189,486	3,599,558

※ポスター印刷費はポスターデザイン代を含む。

評議員会費

会議費（年 2 回）	201,827
資料印刷費	22,050
合 計	223,877

常任委員会費

旅費（年 2 回）	640,720
会議費（年 2 回）	37,354
合 計	678,074

編集委員会費

旅費（年1回）	204,040
会議費（年1回）	22,320
英文校閲費	80,000
アルバイト費（編集補助）	75,000
通信費	40,000
合 計	421,360

大会運営委員会費

旅費（年2回）	486,270
会議費（年2回）	21,352
合 計	507,622

広報委員会費

旅費	6,320
アルバイト費（作業補助）	1,500
ホームページ保守管理費	105,000
英語サイト構築費用	119,700
ファビコン作成費用	10,500
webmaster 経費補助	72,000
合 計	315,020

夏期講座委員会費

旅費（年1回）	32,840
---------	--------

事務局費

旅費（会計監査, 科研費説明会, 実地検査）	96,040
事務局長活動費	360,000
学会賞備品等	13,470
合 計	469,510

学会賞関係費

論文賞副賞（2件）	100,000
-----------	---------

多様性プロジェクト（公募型）費

旅費	45,260
----	--------

言語系学会連合費

50,000

CIPL 負担金

110,000

2011 年度負担金

CIPL 言語学文献一覧編集補助

166,800

通信費

切手購入、通常発送費	54,175
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	23,100
会費請求・督促状送料	284,932
カード手数料・送金手数料・残高証明発行手数料	97,555
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	47,627
大会関係送料	22,091
その他（文科省提出書類発送等）送料	5,825
合 計	535,305

消耗品費

文房具購入費	17,005
振替用紙印刷費	67,042
封筒印刷費	241,237
合 計	325,284

雑費

国際学会協賛（evolang 9）	30,000
国際学会協賛（国際歴史言語学会）	30,000
合 計	60,000

名簿作成費

データ調査印刷費	144,889
データ調査通信費	289,425
会員名簿印刷費	0
会員名簿通信費	0
アルバイト費	0
その他	0
合 計	434,314

選挙関連費

選挙関連印刷費	346,122
選挙関連通信費	381,240
旅費	27,620
会議費	3,600
合 計	758,582

予備費

論文賞選考小委員会旅費	16,100
大会発表賞選考小委員会旅費	253,080
合 計	269,180

基金への繰入

多様性プロジェクト（公募型）積立金	500,000
夏期講座積立金	500,000
合 計	1,000,000

◇ 2011 年度決算 予算・実績対照表

収入

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	13,000,000	13,420,500	420,500
雑誌売上	500,000	1,337,650	837,650
科学研究費補助金	1,700,000	1,700,000	0
科学研究費補助金利息	0	63	63
預金金利	10,000	3,332	△ 6,668
大会関係収入	1,600,000	2,384,920	784,920
広告料	0	0	0
雑収入	0	120	120
雑益	0	0	0
基金からの繰入	2,000,000	2,000,000	0
夏期講座準備費返納	0	0	0
収入合計	18,810,000	20,846,585	2,036,585
前期繰越金	7,266,812	7,266,812	0
合 計	26,076,812	28,113,397	2,036,585

支出

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	5,153,800	3,814,020	1,339,780
発送費	600,000	383,240	216,760
事務委託費	4,284,000	4,284,000	0
大会関係費	4,500,000	3,599,558	900,442
評議員会費	300,000	223,877	76,123
常任委員会費	800,000	678,074	121,926
編集委員会費	500,000	421,360	78,640
大会運営委員会費	800,000	507,622	292,378
広報委員会費	700,000	315,020	384,980
夏期講座委員会費	200,000	32,840	167,160
事務局費	900,000	469,510	430,490
学会賞費	100,000	100,000	0
多様性プロジェクト(公契)費	300,000	45,260	254,740
夏期講座準備費	0	0	0
言語系学会連合費	150,000	50,000	100,000
C I P L 負担金	120,000	110,000	10,000
C I P L 言語学文献一覧編集補助	200,000	166,800	33,200
通信費	700,000	535,305	164,695
消耗品費	400,000	325,284	74,716
雑費	0	60,000	△ 60,000
名簿作成費	2,100,000	434,314	1,665,686
選挙関係費	900,000	758,582	141,418
予備費	1,369,012	269,180	1,099,832
(基金への繰入)	—	—	0
名簿作成積立金	0	0	0
選挙関係積立金	0	0	0
多様性プロジェクト(公契)積立金	500,000	500,000	0
夏期講座積立金	500,000	500,000	0
支出合計	26,076,812	18,583,846	7,492,966
次期繰越金	0	9,529,551	△ 9,529,551
合 計	26,076,812	28,113,397	△ 2,036,585

◇資産勘定

2012年3月31日(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	467,711	国内通常	165,500
みずほ銀行口座	3,076,594	国内学生	36,000
郵便振替口座	5,188,151	国内団体	0
カード	0	在外個人	0
本部事務局		在外学生	0
事務局口座	0	前受購読料	189,000
夏期講座小委員会口座	315	未払金**	322,520
未収金*	1,009,800	仮受金	0
前払金	500,000		
		次期繰越	9,529,551
計	10,242,571	計	10,242,571

* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2011年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内 訳	金 額
『言語研究』売上げ(松香堂取次分)	1,009,800
合計	1,009,800

** 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2011年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内 訳	金 額
『言語研究』第141号発送費	172,260
多様性プロジェクト打合せ旅費	45,260
ホームページ保守管理費	105,000
合計	322,520

基金 決算 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計(前期繰越)	12,872,670	一般会計へ支出	2,000,000
一般会計から繰入	1,000,000		
定期預金金利	888		
収入合計	13,873,558	支出合計	2,000,000
		次期繰越金	11,873,558
計	13,873,558	計	13,873,558

基金 資産勘定 2011年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	8,050,000	積立金	11,873,558
京都銀行定期預金口座	3,823,558		
計	11,873,558	計	11,873,558

○基金内訳 (目的別) 2012年3月31日 (単位：円)

記念大会積立金	2004年度*	1,000,000
	2003年度	1,200,000
	2002年度	400,000
	2001年度	400,000
	2000年度	400,000
	1999年度	500,000
	1998年度	250,000
夏期講座積立金	2011年度	500,000
	2010年度	500,000
	2004年度**	2,000,000
危機言語プロジェクト積立金	2005年度	300,000
	2004年度	402,449
e-ジャーナル積立金	2009年度	500,000
	2004年度*	1,000,000
	2003年度	1,000,000
言語学普及積立金	2009年度	500,000
多様性プロジェクト(公募型)積立金	2011年度	500,000
	2010年度	500,000
預金利子累積分***		21,109
計		11,873,558

○基金内訳（銀行別）2012年3月31日（単位：円）

銀行名	預かり番号	名目	金額
みずほ銀行	052	2011年度夏期講座積立金	500,000
みずほ銀行	053	2011年度多様性プロジェクト（公募型）積立金	500,000
みずほ銀行	048	2010年度夏期講座積立金	500,000
みずほ銀行	049	2010年度多様性プロジェクト（公募型）積立金	500,000
みずほ銀行	044	2009年度e-ジャーナル積立金	500,000
みずほ銀行	047	2009年度言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	039	2005年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	002	2004年度記念大会積立金*	1,000,000
みずほ銀行	035	2004年度夏期講座積立金**	600,000
京都銀行	002	2004年度夏期講座積立金***	1,400,000
京都銀行	001	2004年度危機言語プロジェクト積立金	402,449
京都銀行	002	2004年度e-ジャーナル積立金*	1,000,000
みずほ銀行	038	2003年度記念大会積立金	1,200,000
みずほ銀行	037	2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
みずほ銀行	028	2002年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	025	2001年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	021	2000年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	014	1999年度記念大会積立金	500,000
みずほ銀行	007	1998年度記念大会積立金	250,000
京都銀行	(002)	預金利子累積分***	21,109
計			11,873,558

* 2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円は京都銀行定期（預金番号002）に一括して積立。

** 2004年度夏期講座積立金は、みずほ銀行定期（預金番号035）に600,000円、京都銀行定期（預金番号002）に1,400,000円積立。

*** 京都銀行定期（預金番号002）に一括積立の2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円の利息。

【別表2】2012年度日本言語学会予算

自 2012年4月 至 2013年3月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,000,000	刊 行 費	5,153,800
雑 誌 売 上	500,000	発 送 費	600,000
科学研究費補助金	1,600,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	4,500,000
預 金 金 利	3,000	評 議 員 会 費	300,000
大会関係収入	1,600,000	常 任 委 員 会 費	800,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	700,000
雑 収 入	0	大 会 運 営 委 員 会 費	800,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	700,000
基金からの繰り入れ	750,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
夏期講座準備費返納	0	事 務 局 費	1,000,000
		学 会 賞 費	700,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	0
		夏 期 講 座 準 備 費	1,200,000
		言 語 系 学 会 連 合 費	150,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL言語学文献一覽編集補助	200,000
		通 信 費	700,000
		消 耗 品 費	400,000
		雑 費	100,000
		名 簿 作 成 費	2,100,000
		選 挙 関 係 費	0
		学 会 賞 小 委 員 会 費	350,000
		予 備 費	824,751
		(基金への繰入)	—
		名 簿 作 成 積 立 金	800,000
		選 挙 関 係 積 立 金	300,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	0
		夏 期 講 座 積 立 金	0
収 入 合 計	17,453,000	支 出 合 計	26,982,551
前 期 繰 越 金	9,529,551	収 支 差 額 (次 期 繰 越 金)	0
合 計	26,982,551	合 計	26,982,551

第 144 回大会

期日 2012 年 6 月 16 日 (土)・6 月 17 日 (日)

会場 東京外国語大学

会長就任講演 6 月 17 日 (土) 10:30 ~ 11:50

「アフリカ人のコミュニケーション—音・人・ビジュアル—」 梶 茂樹

公開シンポジウム 6 月 17 日 (土) 14:00 ~ 17:15

「知覚・感覚・感情をめぐる言語表現」 司会 遠藤 喜雄

唯物論か、唯識論か? 風間伸次郎

—アルタイ型言語における感情述語の諸相—

中国語の知覚・感覚・感情表現 木村 英樹

—“痛快”と“凉快”の境界—

タイ語の知覚・感覚・感情表現 峰岸 真琴

インドネシア周辺の言語における知覚・感覚・感情表現 塩原 朝子

総括「認知類型と心理述語」 大堀 壽夫

口頭発表

—第 1 日 (6 月 16 日 (土)) 13:00 ~ 18:00—

◦ A 会場

- | | | | |
|-------|---------|---|--|
| (A 1) | 13:00 ~ | On the distribution of possessive pronouns in modern Mongolian | Lina BAO
Hideki MAKI
Megumi HASEBE |
| (A 2) | 13:35 ~ | A mystery with the <i>ceart</i> 'correct' construction in modern Ulster Irish | Hideki MAKI
Dónall P. Ó BAOILL |
| (A 3) | 14:15 ~ | Double- <i>o</i> Constraint revisited | Fumikazu NIINUMA
Shigeki TAGUCHI |
| (A 4) | 14:50 ~ | 対格言語と能格言語の共時的違いと通時的変化 | 菅野 悟
北田 伸一 |
| (A 5) | 15:40 ~ | 受動文における外項抑制／結合価減少は必須か? | 野元 裕樹 |
| (A 6) | 16:15 ~ | 等価的小節の分布について | 浅田 裕子 |
| (A 7) | 16:55 ~ | 音象徴／類像的意味と統語構造のインターフェイス | 大関 洋平
飛鳥 麻衣 |
| (A 8) | 17:30 ~ | かき混ぜ文とゼロ目的語の談話機能における相補分布性 | 今村 怜
小泉 政利 |

◦ B 会場

- | | | | |
|-------|---------|-----------------------------------|----------------|
| (B 1) | 13:00 ~ | 韓国麗水市突山邑方言のアクセント | 姜 英淑 |
| (B 2) | 13:35 ~ | 韓国語光陽方言のアクセント | Jaehyun SON |
| (B 3) | 14:15 ~ | 韓国語方言における語彙アクセント消失とソウル方言音調パターンの成立 | 李 文淑 |
| (B 4) | 14:50 ~ | 終助詞の感受性に関する個人差：対人調整能力と性別の影響 | 木山 幸子
玉岡賀津雄 |

リヌス・フェアドンスコット

- (B 5) 15:40 ~ マレーシア語の談話小辞 kan の機能分化：日本語の
文末形式との対比を通じて 勝田 順子
堀江 薫
- (B 6) 16:15 ~ LFにおける格と虚辞 there の統語機能について 平崎永里子
- (B 7) 16:55 ~ 韓国語／朝鮮語「属格主語節」の統語構造—韻律的
特徴を手がかりとして— 金 英周
五十嵐陽介
酒井 弘
辰己 雄太
- (B 8) 17:30 ~ Predicate Phrase と日本語助詞の「に」
。C会場 辰己 雄太
- (C 1) 13:00 ~ 父称Mac-/Mc-で始まる姓の借用語における促音化：
つづり字と音節構造 大滝 靖司
- (C 2) 13:35 ~ 町名のアクセント：アクセントの平板化と言語内的
要因 儀利古幹雄
- (C 3) 14:15 ~ Japanese accent is largely predictable: evidence from given
names Ayaka SUGAWARA
- (C 4) 14:50 ~ Kyungsang Korean accent classes and lexical drift
Michael KENSTOWICZ
- 。D会場
- (D 1) 13:00 ~ ノルウェー語 Sandnes (サンネス) 方言における前
気音の音韻論：無声閉鎖音の解釈と関連づけて 三村 竜之
- (D 2) 13:35 ~ 宮古における「中舌母音」の音韻解釈 青井 隼人
- (D 3) 14:15 ~ チノ語補遠方言の介音の推移とその周辺 林 範彦
- (D 4) 14:50 ~ Non-reconstruction in Chinese sluicing Ting-Chi WEI
- 。E会場
- (E 1) 13:00 ~ カドゥー語とガナン語における疑問助詞について 藤原 敬介
- (E 2) 13:35 ~ アラビア語チュニス方言における文構造の働き 熊切 拓
- (E 3) 14:15 ~ サハ語の使役文・受身文における格標示と有生性 江畑 冬生
- (E 4) 14:50 ~ ウズベク語のいわゆる suspended affixation について 吉村 大樹
- (E 5) 15:40 ~ マルト語の副動詞における冗長な活用の発生 小林 正人
- (E 6) 16:15 ~ 古典ナワトル語の被動者名詞形成における項の飽和 佐々木充文
- (E 7) 16:55 ~ バスク語レクンベリ方言における能格と同様の機能
を持つ絶対格 石塚 政行
- (E 8) 17:30 ~ ハワイ語における特殊動詞—“Loa‘a- type verbs” を
巡って 岩崎加奈絵
- 。F会場
- (F 1) 13:00 ~ 日本語と中国語の「能力主体指向の可能表現」—「二」
標示可能文と“会”可能文— 大江 元貴
- (F 2) 13:35 ~ V スギル構文の解釈と構造 東寺 祐亮
- (F 3) 14:15 ~ 日本語等位接続表現の語用論的分析—タリとシの場合—
長辻 幸
- (F 4) 14:50 ~ 「A を B にする」構文の分析—語彙概念構造からの
アプローチ— 山田 昌史
- 。G会場
- (G 1) 13:00 ~ 後置文の情報構造と統語特徴 綿貫 啓子
- (G 2) 13:35 ~ 現代日本語標準語における未然形 佐々木 冠

(G 3)	14:15 ~	命題選択プロセスの存在を明示する「の(だ)」文	五十嵐啓太
(G 4)	14:50 ~	認識論における「のだ」	蒲地賢一郎
(G 5)	15:40 ~	複合動詞形成における「一義的経路制約」の再解釈 —「*落とし壊す」「*潰し壊す」はなぜ不適切なのか—	張 楠
(G 6)	16:15 ~	日本語における「擬態語+つく」タイプの動詞の形成について	長谷部郁子
(G 7)	16:55 ~	移動様態動詞と生起する着点ニ格名詞句とその認可条件	並木翔太郎
(G 8)	17:30 ~	ネオ敬語「ス」の語用論的機能	呉 泰均

ワークショップ

—第1日 (6月16日(土)) 15:40 ~ 17:25—

ワークショップ1 (C会場)

「アクセント位置と音調索性」	企画・司会	那須川訓也
アクセントの担い手となる単位		早田 輝洋
日本語における音調索性		那須川訓也
	フィリップ・バックレイ	
日本語における複合語と句のアクセント		時崎 久夫

ワークショップ2 (D会場)

「東アジア接尾辞型諸言語における動詞屈折形式：分詞に関する問題を中心に」	企画	長崎 郁
	司会	江畑 冬生
サハ語の動詞屈折形式：形式と機能の対応		江畑 冬生
ブリヤート語の動詞屈折形式：分詞の機能／派生との 区別		山越 康裕
コリマ・ユカギール語の動詞屈折形式：分詞の機能と 形態法		長崎 郁
八重山語波照間方言の動詞屈折形式と述部が要求する モダリティ要素		麻生 玲子

ワークショップ3 (F会場)

「コーパス基盤の日本語研究の新地平」	企画	ブラシャント・バルデシ
	司会	影山 太郎
『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の構 築とKOTONOHA計画の歩み		前川喜久雄
形態論情報を利用したBCCWJ検索ツール『中納言』 の機能とその日本語研究への活用」		山崎 誠
レキシカルプロファイリング手法を用いたBCCWJ 検索ツールNINJAL-LWPとその研究事例	ブラシャント・バルデシ	赤瀬川史朗

ポスター発表

—第2日 (6月17日(日)) 11:50 ~ 13:20 (アゴラ・グローバル2階) —

日本語とアイヌ語の受動構文をめぐって—不定人称構文につい ての考察—	FREGUJA Fulvio
---------------------------------------	----------------

早期英語教育および英語圏生活経験の効果の検証
—日本人大学生による英語の対立音素の聴覚認知—

宮本 彩加
小林 由紀

語彙的複合動詞における使役起動交替

広瀬 友紀
日高 俊夫

ビジネス接触場面の会話において齟齬が生じたとき—会話の
「修復」の視点から—

梅村 弥生

◇退 会

国内通常会員 59名

国内学生会員 10名

国内団体会員 4件



◇本学会の委員（現評議員）であった杉藤美代子氏は、2012年2月1日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇本学会の委員（現評議員）であった原口庄輔氏は、2012年6月7日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇本学会の顧問（元会長）の西田龍雄氏は、2012年9月26日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。